

子どもの体調変化に気をつけましょう



小さな子どもは体調をうまく伝えられません。「いつもとちがう」サインを見逃さないようにすることが大切です。また、病気のときは無理をせず、しっかり休養をとるようにしましょう。

いつもとちがうこんなとき お家で様子をみましょう

発熱の場合

- 24時間以内に 38℃以上の熱 が出たり、解熱剤を使用している。
 - 朝から 37.5℃を超えた熱がある ことに加え、元気がなく機嫌が悪い、食欲がない。
- ※子どもの元気な時の「平熱」を知っておくことが重要です。



吐いた場合

- 24時間以内に複数回のおう吐や、吐くと同時に体温がいつもより高いなどの症状がある。
- 食欲がなく、水分を欲しがらず、機嫌が悪く元気がない。
- 顔色が悪くぐったりしている。

咳の場合

- 夜間しばしば咳のため起きる。
- ゼイゼイ音、ヒューヒュー音や呼吸困難がある。
- 呼吸が速い。
- 少し動いただけで咳が出る。



げりの場合

- 24時間以内に複数回の水の様な便が出ており、食事や水分を摂ると、その刺激でげりをする。
- げりと同時に、体温がいつもより高いなど他の症状がある。
- 朝からおしっこが出ず、機嫌が悪く元気がない。
- 顔色が悪くぐったりしている。



発しんなどの場合

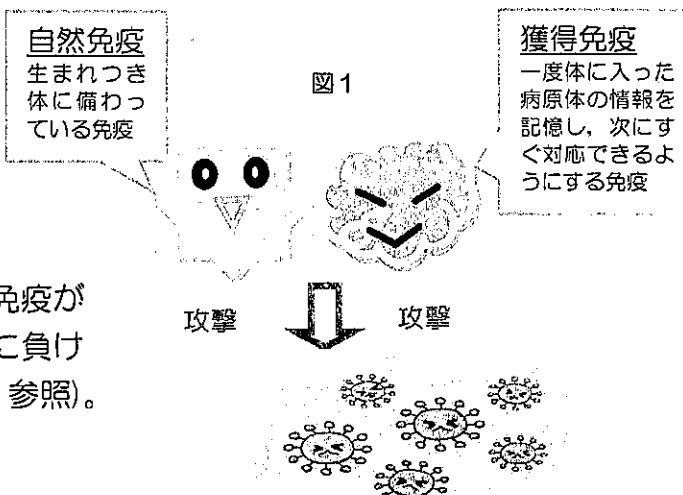
- 発熱と共に発しんがある。
- 浸出液(傷口などからにじみ出る液)が出ており、他児に感染のおそれがある。
- 感染症による発しんが疑われ、医師より登園を控えるよう指示がある。
- 口内炎がひどく、食事や水分が摂れない。
- かゆみが強く、手で発しんをかいたりして、他児に感染のおそれがある。



なぜどうして？

Q:子どもはなぜ、病気にかかりやすいの？

A:人は自然免疫と獲得免疫によってウイルスなどから体を守っています。子どもは病原体に感染した経験が大人より少ないため、獲得免疫が未熟で何度も感染しながら、ウイルスや細菌に負けない抵抗力(免疫)をつけていきます。(図1参照)。



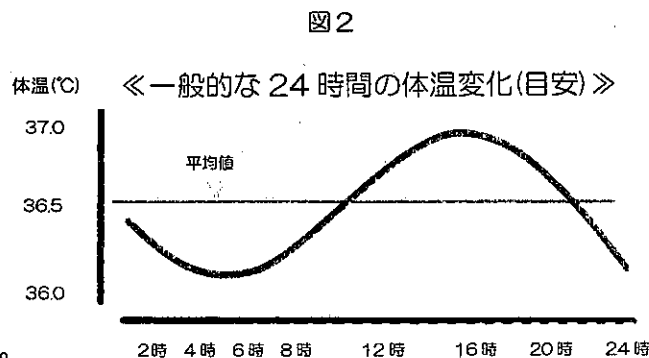
Q:子どもはなぜ、熱を出しやすいの？

A:発熱は、免疫がウイルスや細菌と戦っているサインです。

体温を上げることでウイルスや細菌を退治しようとしています。子どもの免疫は活発で、ウイルスや細菌に対して反応が良く、熱が上がりやすいといわれています。

また、体温は1日のうちでは朝が最も低く、次第に上がり、夕方が最も高く、夜になると下がりはじめます。(通常の変動幅は1℃程度とされています。)(図2参照)

朝、解熱していても、しっかり治っていない状態で登所すると、日中にまた発熱してしまう事もあります。解熱して24時間は、できるだけ自宅で様子を見てから登所しましょう。



～こんなとき、お困りではありませんか～

* 病後児保育のご案内 *

仕事が休めない・・・



微熱になったけど、まだ体調が戻らない。

西条保育所 病後児保育室では市内に在住の生後6か月から 小学校6年生までの病気の回復期にあるお子さんをお預かりします

利用日・利用時間：平日の午前8時から午後5時30分まで
(12月29日から1月3日まではお休みです。)

利用料金：1日 2,000円(昼食、おやつを含む)
(生活保護世帯は無料)

利用方法：①電話で予約をします。(382-6518)
②医師連絡票(ホームページからもダウンロードできます。)
を持って鈴鹿市内の医療機関を受診します。
(医師が利用可能と判断した場合に利用できます。)
③西条保育所(鈴鹿市西条八丁目19-1)
北側駐車場に車を停めてお越しください。



※事前に登録がお済みでない場合は、お子さんの保険証、母子手帳を忘れずにお持ちください。